

平成29年度第2回

# 松本市総合教育会議会議録

松本市教育委員会

## 平成29年度第2回松本市総合教育会議会議録

平成29年度第2回松本市総合教育会議が平成29年11月22日午後3時00分市役所第一応接室に招集された。

---

平成29年11月22日（水）

---

### 議 事 日 程

平成29年11月22日午後3時00分開議

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 懇談  
「子どもの愛着形成を考える」
- 4 その他  
「人口減少と今後の学校のあり方について」
- 5 閉会

〔構成委員〕

市	長	菅	谷	昭		
教	育	長	赤	羽	郁	夫
教育長職務代理者		市	川	莊	一	
委	員	花	村	潔		
	〃	福	島	智	子	
	〃	山	田	幸	江	

〔事務局構成員〕

総	務	部	長	丸	山	貴	史								
行	政	管	理	長	市	川	英	治							
健	康	づ	く	り	課	長	塚	田	雅	宏					
健	康	づ	く	り	課	課	長	補	佐	波	多	腰	秀	美	(保健担当係長)
こ	ど	も	部	長	伊	佐	治	裕	子						
こ	ど	も	育	成	課	長	上	條	公	徳					
保	育	課	課	長	補	佐	市	川	美	千	代	(指導担当係長)			
教	育	部	長	矢	久	保	学								
学	校	教	育	課	長	麻	田	仁	郎						
学	校	指	導	課	長	横	田	則	雄						

〔事務局〕

教育政策課長	小	林	伸	一
教育政策課				
教育政策担当係長	甕	国	人	
教育政策課				
教育政策担当係長	堀	敬	子	

《開会宣言》 午後3時00分

教育政策課長は平成29年度第2回松本市総合教育会議の開会を宣言した。

小林教育政策課長 ただいまから平成29年度第2回松本市総合教育会議を開催いたします。教育政策課長の小林でございますが、議事に入るまでの間、進行を努めますのでよろしく願いいたします。

本日の会議はお手元の次第により進行いたします。最初にこの会議を主催する菅谷市長からご挨拶をお願いいたします。

菅谷市長 お疲れさまでございます。

冬の訪れを感じる今日この頃です。平成29年度第2回松本市総合教育会議の開催に当たりまして、一言ご挨拶申し上げます。

日ごろは赤羽教育長はじめ教育委員の皆様方には本市の教育行政の推進に対しまして、大変ご苦勞をいただいておりますことに、心から感謝を申し上げます。また本日はご多忙の中、またお寒い中、ご出席いただきましたことに対しまして、重ねて御礼申し上げます。

前回5月に開催いたしました際には、今後5年間における本市の教育施策の展開を示す「第2次松本市教育振興基本計画」を「松本市教育大綱」と位置づけるとともに、ひきこもりの現状と課題について情報共有し、失敗してもやり直しができる。複線型社会を目指すことなどについて、懇談が行われました。

私がかねてより学校教育を中心とした勉強が唯一の評価基準という評価観から、手に職を持つことも尊敬されるような社会への転換が必要ではないかということで、松本版マイスター制度のようなものを研究してみてもどうかということをご提案しているところであります。

その一方で、将来を担う子どもたちの健全な育ちを考えると、今の世の中にはさまざまな喫緊の課題が山積しております。

そこで、今回は担当部などからの発案もございまして、乳幼児期の子育てに焦点を当て、スマートフォンやタブレット端末などの急速な普及に伴い、子育て環境も著しく変化していることから「子どもの愛着形成を考える」を懇談テーマとさせていただきました。

教育委員の皆様におかれましては、それぞれの立場から余り形式にとら

われずに、発言いただきまして、自由闊達な意見交換ができることを望んでおりますので、よろしくお願いいたします。

小林教育政策課長 ありがとうございます。

続きまして赤羽教育長からご挨拶をお願いします。

赤羽教育長 それでは、第2回松本市総合教育会議の開催に当たりまして、教育委員会を代表して一言ご挨拶を申し上げます。

ただいま菅谷市長のご挨拶にもありましたが、第1回の会議では本年度からの「第2次松本市教育振興基本計画」のめざすもの等の確認が行われ、改めて「松本市教育大綱」と決めていただくことをお認めいただき、その後5月29日に正式決定となりました。本当にありがとうございました。

この計画の中でも多くの課題が浮かび上がってきておりますが、その中の一つが高度情報化社会の加速化に伴い、子どもたちのスマホ携帯率が、増加傾向にある一方、親のスマホ依存率も非常に高くなってきていることです。そして、乳幼児期の使用により、人間にとって最も大切な期間、つまり「心の土台」を形成すべき時期を見逃し、子どもの心に取り返しのつかないダメージを蓄積してしまっていることが、非常に大きな社会問題となっております。

今までの総合教育会議では、不登校、子どもの現状等の対応について懇談をしてきましたが、本日の会議では、子育てに関わっていく親をはじめ、大人のあり方について「子どもとどう向き合っていくか」について考え、懇談を深めていけたらなと思っております。

そして、本日の会議をきっかけとして、松本市の教育がめざす姿「学都松本」の一層の推進を図り、「健康寿命延伸都市・松本」の実現に向けて、市長部局と教育委員会が一体となって取り組んでまいりたいと考えておりますので、菅谷市長におかれましては、今後とも格別のご理解を賜りますようお願いし、挨拶とさせていただきます。本日はどうぞよろしくお願いいたします。

小林教育政策課長 ありがとうございます。それでは、早速懇談に入ります。

菅谷市長、進行をお願いいたします。

菅谷市長 では、会議進行を努めますので、よろしくお願いいたします。

今、赤羽教育長からもお話がございましたが、本日のテーマは「子どもの愛着形成を考える」です。

先日、東京に行きましたが、異常な世界で10人中8人が電車の中でスマホを見ていました。まさに「下を向き指を動かし我的世界」でした。他者に全く無関心になっています。スマートフォン、いいところもありますが、場合によっては問題を起こすこともありますので、今日は、それぞれのお立場でスマートフォンの功罪、そしてどのように対応していけばいいのかまで話ができればよいと思っております。

最初に赤羽教育長から趣旨や問題提起などを改めてご説明いただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

赤羽教育長

冒頭、市長の挨拶にもありましたが、将来を担う子どもたちの健全な育ちを考えたときに、今の世の中、本当にさまざまな課題が山積しております。第2次教育振興基本計画にも幾つかの課題が記載されておりますが、スマートフォンをはじめ、メディアの急速な発達により、親世代など大人のあり方に大きな変化をもたらし、その結果、子育てや幼少期の子どもの発達に大きな影響を及ぼしているということが各方面から指摘をされております。

また、子どもたちの現実を見たとき、今、発達障害の増加が大きな問題になっておりますが、その影には愛着の形成が充分なされていないことが一因と言われるようになり、愛着障害との区別がなかなかつきにくいという現状がお医者さん等からも指摘されております。

いずれにしても、大人も子どもも現在の子育て期や発達において、いわゆるスマホ等も含めて、未だかつて経験したことのない状況の中で、もがき苦しんでいるということがあるのではないかと考えています。そして、親の子育て等で孤立してうまくいかないはけ口として「子どもの虐待」や「育児放棄」等により苦しんでいる子どもたちが増加しているのではないのでしょうか。

先日、ラジオを聞いておりましたら、一見、何の問題もなく成長した若者の中に、「自分は親から愛されて育っていなかったのではないか」という思いを募らせて、大人になってから非常に生きづらい人生を送るという

若者が増えているという話をしておりました。

そういう意味で、乳幼児期を初めとして、これから子どもたちが生きていくためには、「愛着の形成」を私たち大人がしっかり考え直していく必要があるのではないかと思います。まさに、その子どもの人生を左右する、大きな根幹になっているのではないかと考えています。

「今の子どもは」、「今の親は」という一言で片づけてしまうのは簡単ですが、良いとか悪いではなく、それぞれの立場で「何が、どう問題なのか」をぜひ懇談をして洗い出していく必要があるのではないかと考えています。

雑駁ですが、趣旨説明、問題提起とさせていただきます。

菅谷市長

ありがとうございます。赤羽教育長から、スマホには功罪があるので、問題点の洗い出しをしてみたらどうかというお話がありました。

では、花村委員さんいかがでしょうか。

花村委員

先程、菅谷市長がおっしゃいましたが、私もたまたま東京に行く用事があり山手線に乗りましたが、学生や若い人たちはスマホを操作して下を向いており、人との繋がりが全くなく「我、関せず」といった異様な感じでした。

最近の調査で、スマホ所持率は、小学生で5割、中学生で7割と高くなっていることが分かっております。

先日、教育委員会が地区に出向きグループ懇談をする機会がありました。懇談テーマを地区の皆さんから意見を聞いて決めたのですが、まず言われたことは「うちの子は、スマホばかり見ているが、教育委員会で何とかしてくれないか」ということで、周りが困っている状況がよく分かりました。

私の診療所の待合室の話をします。子どもが待合室でドンドン走りまわり、大きな声をあげて騒いでいることがよくあります。子どものお母さんは何をしているのかと言えば、座ってスマホを見ているのです。他の人もいるので迷惑ではと思いきになるのですが、様子を見てお母さんは一言も注意しません。私は、大体その子どものお母さんが分かりますので、診察の順番になった時、「お母さん、待合室で子どもがぎゃあぎゃあ騒いで人に迷惑かけているよ。この子が大きくなったら、お母さん困るよ。」

「子どもと一緒に遊ぶことを大事にしてね。」と言うようにしています。

物を見て、理解して考える前頭葉の発育は生まれてから3歳ぐらいまでです。3歳までにどれだけ愛情を持った育て方をしてもらったかで行動パターンが異なってくると思います。

子どもが自閉症だと言われたお母さん、とても落ち込んだ様子で私のところに来ます。私は、お母さんに「そんなに沈まないで、少し大きな目で見ても子どもの発達を見ていこうよ。いろいろあると思うけれど、決して手を振り上げて怒ることはしないでよ。」と口をすっぱくして言います。そして「良い事も悪いことも、とにかくよく聞いてあげなさい。」と伝えるようにしています。そういった子どもたちを見ていると、3歳以降に変わってきます。愛情を持った育てられた子どもは、「〇〇君やるぞ。そこの椅子に座るか」というと、パッと座るのです。しかし、そういう育ちをしてこなかった子どもは、座ってはくれません。その差は何かと考えると、小さい頃から愛の目を持って言葉掛けをして育てられた子どもは目には見えませんが、心の中にお母さん、お父さんを慕う気持ちが育っているのだと思います。

愛着障害と思われる子どもは、周りの周囲の温かい言葉なり育て方をしたら絶対に治りますが、発達障害はそうはいきません。ですので、愛着障害と発達障害は違います。

それからもう一つ、昔からいいですよ。「三つ子の魂百まで」。やはり愛着を持って育てることについては3歳未満までがとても大事だと思います。

現在、発達障害が増加したと言われておりますが、この中に愛着障害がかなり含まれていると思います。ですので、全て発達障害に含まれるということはありませんが、きちんと観察してサポートしていくことが非常に大事だと思います。

菅谷市長

花村先生の経験から「発達障害」と「愛着障害」とは違うというお話でした。

では、山田委員さんどうですかね。

山田委員

今、私も花村先生がおっしゃったように、最近、「発達障害」という大



きなくくりの中に「愛着障害」と思われるお子さんが混ざっていることを感じます。花村先生がおっしゃいましたが、発達障害の子は、マニュアルに沿った育て方をしてあげること、例えば、「一度に沢山のことを言わない」、「終わりをはっきり決めてあげるといようなことができる」等、お子さんの対応の仕方があると思います。しかし、愛着障害のお子さんに同じ対応をしてもいいかという、そうとも言えないと思います。

現在、児童センターおりますが、児童センターにも毎年必ず「発達障害」のお子さんが数名入ってきます。

あるお子さんが1年生の時にお父さんの迎えをととても嫌がり、お父さんが迎えに来ると、口も利かずに帰ってしまうことがありました。どうしてだろうと思っていたら、お家でお父さんがかなり手をあげていたようでした。この子は、ADHDで落ちつきがなく、手は出るし暴れてしまうお子さんで、お父さんも困っていたと思います。そのお子さんは、「お父さんが手を出して怖いから、僕が何かやってもお父さんに言いつけないで」ということをしきりとセンターでも言っていたお子さんでした。その子が2年生になり、お母さんが迎えに来た際、「やっぱり父親と合わないのですよね。父親が怖いのですよね」とおっしゃって、どちらかという、お母さんもその子に手を焼いているという雰囲気がありました。しかし、この頃とてもいい子で非常に落ちついていました。どうしてこんなに落ちついていられるだろうと思って見たときに、お母さんの変化がありました。お母さんがとてもやわらかい表情で迎えに来るようになったのです。めったに子どもの話をしなかったお母さんでしたが、進んで話をするようになったのです。「先生、今日はすみません。お薬飲んでないです。飲み忘れているので落ちつかないと思います」ということを自分から言ってくれるようになったのです。ある意味、お母さんの愛着がその子に向いていなかったことがあったのではないかと思います。

その辺りの見極めが大切であると子どもたちを見ていて思います。

それから、以前学校にいたとき、予防接種の際に泣く子が多くいたことを思い出しました。

昔は、お母さんから「先生、うちの子は注射が苦手です絶対泣くと思いま

す」という子どもがクラスに1人位は居て、その子をみんなで羽交い絞めにして、「何が何でも注射をさせるぞ」みたいな子が1人、2人は居たのですが、今は、注射に並ぶ列から泣き出す子が多く見られるようになりました。「最近の子どもはひ弱だよな」と思っていたのですが、この資料を読ませていただき、「ああそうか、育ってくる段階で何かひよっとしたら何かあるのかな」ということを思いました。

そして、お母さんの愛情のかけ方が子どもに対して100%ではなく、お母さん自身のことで3、4割、残りを子どもに使っているというような状況が続いているのではないかということをおもいました。

菅谷市長

ありがとうございました。

それでは、市川委員さんどうでしょうか。

市川委員

私の子ども時代から考えてみると、持っているものが変わったと感じます。

私の子ども時代、祖父から小学校3年生までは朝起きたら玄関の拭き掃除、4年生からは神棚と仏壇に御飯をあげなさいと言われて育ちました。それが毎日の仕事でした。

学校から帰ったら、まず、兄弟3人で必ずヒツジとヤギのえさである草取りをやらなければならないと、とにかく早く草を沢山刈ってヒツジとヤギの小屋に掘り込んで遊びに行ったことを覚えています。私の子どもの頃は仕事が必ずありました。

現在、会社を経営しており、18歳や22、3歳で入社してきますが、20年程前と大分違ってきていると感じます。違いは何かというと、仕事に就く準備ができていないという気がします。勉強はしていますが、働く意味や働き方を知らないのではないかと感じるのです。お金をもらうことは当たり前で、会社の初任給は幾らだから、幾らもらえるということが頭にあり、働いたお金が何かということが全く理解できていません。私たちは、学校に行かせてもらった時から親たちの働く姿を見ていて、働いて学校に行かせてもらっているという事が非常によく分かっていましたが、今、入社してきた子どもは「働くって何」というところが理解出来ず、私の会社では、もう一度学校へ行かせて、「学校は何で行くのか、この仕

事覚えるためだよ」ということからスタートし勉強させています。

私には、娘が3人おり、孫が高校1年生から年中まで6人います。娘には、田植えから始まって稲刈りまで、男、女関係なく働かせてきました。

しかし、今、娘の子どもたちを見ていると、同じ百姓をやるにしても働き方が全く違うというか、力として見てやっていないと感じます。昔は、小学生でも稲束をひとつ運んでくると「ありがとう。よくやってくれているね。」と言ったものです。しかし、今は、コンバインで「ばーっと」やってしまい、子どもがいなくても百姓が出来てしまうのです。しかし、コンバインで刈っていても落ち穂等を拾わせるとか、手伝わせることはあると思うのです。機械でやってしまうため、子どもに手伝いをさせないと永遠に仕事を知らないで育ってしまう気がします。

私の会社では、毎年、技能五輪に出場させています。なぜかという、出場することによってその子どもが市長に表敬訪問できるからです。県の代表となることで市長に会うことができ、声を掛けられるのです。

先日、赤羽教育長の教え子が偶然私の会社に入社してきました。この子は、私の会社に来る前に3つも職を変えた子どもでした。今、21歳ですが、この子どもに私が「赤羽先生、お前のことすごく褒めていたよ。」と言ったことによって、この日から変わり、すごく自信がつき、それまで影にいたような子どもでしたが、第三者に褒められたことによって動きと言葉が急に活発になったのです。

私の会社では、入社して1、2年の社員を毎年技能五輪に出場させています。出場するには、もちろん、教える時間もかかりますが、県代表として技能五輪に出場させることも親父企業としての教育と考えています。

市長に会い、声を掛けてもらい誇りを持たせることで子どもたちは伸びていくと思うのです。

以上です。

菅谷市長

ありがとうございました。現場の具体例でした。

それでは、福島委員さん。

福島委員

今、就職する前の大学生と毎日接しておりますが、今の大学生は大学の友達関係の中で、すごく「生きにくさ」みたいなものを抱えている人が何%

かはいます、自分のゼミの学生が8人ぐらいですが、毎年その中の1人か2人は精神的にメンタルに問題がありそうな学生がいます。その学生と話をしていると、自分自身に対する評価がとても低く、「自分のことが嫌いだ。」と言うのです。私から見れば、その学生にはすごくいいところがあって、「あなたにはこんなにいいところがあるよ。」と言っても、例えば就職の前のキャリア教育で、「自分と向き合わないといけない時間」があって、「自分のいいところ」や「悪いところ」を振り返るのですが、そういう時に「自分には全くいいところがなく、企業面接に行ってもアピールするものがない」という学生が中にはいます。

そういう学生たちは、今までの20数年生きてきた中で、どんな育ちをしてきたのか家族等の話を聞いてみると、「兄弟がいて自分だけ頭が悪い」、「兄弟は就職活動に何の問題もなく、ずっと就職できたが、自分は何社も落ちている」等、何か比較をして自分が劣っていると思っているのです。最終的には、企業に就職して、晴れ晴れしく巣立っていく子が多いのですが、「あなたには、こういういいところがあるんだよ」ということを伝え続けることが大事で、「小中学校の先生に全然褒められたことがない」とか、クラスの中で、いつも日の当たらない子だったということが学生たちの話を聞いていくと分かってきました。

先ほど、市川委員が「褒められることがとても大事だ」というお話をされていましたが、私は、遅すぎるということではなくて、大学生になっていたとしても「あなたのいいところは、こういう所だよ」ということを後押ししてあげれば変わるし、変わって欲しいと思いながら大学で教えています。

そして、スマホ育児のことですが、自分のことを振り返ったとき、自分の子どもが乳児だったのは7、8年前でスマホが普及する少し前のことになります。乳幼児健診を思い浮かべても、お母さんたちがスマホをやっていて、子どもを見ていないということは無かったと思います。

現在、私の子どもが幼稚園と小学校低学年ですが、保護者の方々の年代が二極化してきています。私は、高齢で出産しましたので割と頭でっかちで、子育ての本に書いてあるような「子どもと目を合わせなさい」とか、

「本を読みなさい」ということをすごく勉強して、育児をしてきました。夜泣きをした時は、子どもを抱っこしながら、夜が明けるのを待ったこともありました。

今、私の子どもは8歳です。自分が使うより子どもがそれを使うことに関心があります。メディアコントロールとか、時間のコントロールがすごく大事だと毎日のようにテレビで言われていますが、これが、すごく難しいことだと思っています。

アップルのスティーブ・ジョブズは、「自分の子どもにはメディアには触らせなかった」、また、シリコンバレーの殆どの人たちも、「子どもにメディアは触らせなかった」ということを耳にします。当事者は子どもの脳の発達に悪い影響があるということを知っていたのです。

今、イタリアでは子どもがスマートフォンを使用することで「文字が書けなくなっている」ということが問題になっています。小学校に上がったときに文字が書けない、鉛筆が使えない、はさみが使えないということを先日のラジオで言っており、画面を操作することは出来ますが、実際にどう使って何をするのかということが、すごく劣ってきているという話をしていました。メディアを一切触らせない寄宿学校もあるらしく、そこまでいかにしても子どもに手を使わせることが大事な事だと思っています。

菅谷市長           ありがとうございます。今、それぞれ医療者、教育者、企業経営者の皆様のお立場から具体的なお話いただきました。

皆さんのお話を聞いて、赤羽教育長いかがでしょうか。

赤羽教育長       私は、「愛着形成について」を懇談するにあたり本を何冊か読みましたが、中身が殆んど共通していました。愛着の形成は2歳、3歳の幼少期が一番大事だと。しかし、その後、親や主たる養育者になる適切な関わりがあれば、復元するということでした。子どもは復元の力を持っているということです。周りの大人がもっと関われば、例え一時的に愛着形成がうまくいなくても復元するということです。極端な話、大人になってからでも復元するということです。ですから、私たちが「もう駄目だ」と思わず、どの年代であっても愛情をかけて努力をすること、決して諦めないことが



ます。ですから、あるぷキッズの内容をさらに高めることももちろんですが、巡回チームを増やし、回る回数も増やす等の事業拡大をし、将来の方向性を見定めて、小学校の入学時に方向づけをしていけば、少しはいい方向に行くのかなと私自身は考えてみました。

菅谷市長 親への指導をするということですね。

山田委員さん、対応として何かございますか。

山田委員 スマホ自体は本当に花村先生おっしゃっているように、とても良いところが沢山あります。例えば、今、児童センターにいますので、お迎えにきた親御さんがスマホをいじりながら、子どもが支度して出てくるのを待つというのは普通の状態、よくある光景です。それを止めることは、なかなか難しいと思いますが、では、センターで何が出来るかと考えると、心掛けていることとしては、子どもの様子を短い時間で具体的に親御さんに伝える。例えば、「今日はとてもいいことがあって、こんなふうに頑張っていまいたよ」と言って褒めること。それからもう一つ、1人だけボツンと最後まで残ったりした時は、「ちょっと寂しそうでしたよ。お母さんのこと心配してましたよ。」と親御さんに具体的な姿でお伝えしていきたいと思っています。そうすれば、ぎりぎり7時1分前に昨日は迎えに来たのが、「ちょっと今日は早かった。5時半だね。」とか、そういうこともありますので、子どもの姿でお母さんに「子どもが待っているんですよ。本当にお母さん、お母さんと思っているんですよ。お父さんのこと待っているんですよ。」ということを子どもの姿で伝えていきたいと思っています

菅谷市長 市川委員さん、行政としてこの町、市全体として、スマホに関してどう対応したらいいと思いますか。将来、子どもに悪い影響が出てくること、彼らは予測できないわけですね。だから、花村先生が言ったように、子どもが診察室で騒いでいるのに、注意もせず親はスマホ見ているのです。止めるのではなく、市としてどのようにしていったらいいですかね。

市川委員 スマホの使い方を親が間違えてしまうと人間が馬鹿になってしまうと思います。馬鹿になってしまうというのは失礼かもしれませんが、子どもが考える時間が全くなくなってくると思います。

私が一番感じていることは、スマホが普及したことによって現場代理人

の能力が落ちました。携帯電話があると泥縄式になってしまうのです。現場で生コンを頼む時、緻密な計算をして山の中に入っていきます。山の中は何もありませんので、事前に何百立米の生コンが必要だと緻密な計算しお願いしています。しかし、スマホがあることによって、適当な計算をしても、後から「10立米足りないからお願いします。」と連絡すれば生コンが上がってきます。便利になることによって、現場の能力が低下してきているのです。教える側も難しい計算式を教えなくていいのです。要するに教える方も楽だし、教わる方も楽になっています。スマホを持つことによって、私たちの接し方が楽になってきていると思います。

言親が悪くていけません、親も子も「馬鹿」になってしまうと思います。「馬鹿、馬鹿」と言っただけではいけません、要するに考えて行動することが、簡単になり過ぎてしまっているのです。

菅谷市長 福島委員さん、何かありますか。

私は、行政全体、町をどうするのかという方向づけが何かあるといいと思いますがどうでしょうか。

福島委員 よく、「そのうちAIが全ての仕事をとってしまう」と言われています。だから調べれば分かることはみんなが分かりますので、ゼロから何を生み出すというような能力を子どもの身につけてあげるのが、小学校や中学校に求められている、新しい学力だと言われていると思います。そういう教育もあり方を喫緊の課題としてやっていくっていう。

菅谷市長 それは子どもたちに対してですよね。今回の場合は、対策は親と子どもを分けてやらなければいけないと思います。

スマホは功罪があります。先ほど、花村先生からも「駄目だとは言えない」と話がありましたが、私が考えたことは、スマホの使い方だと思います。とても便利です。しかし、子育て中のお母さんたちがスマホに子守をさせることで、将来、自己肯定感が下がる等大変大きな問題に繋がっていく可能性があるならば、スマホの使い方を少し注意しないといけないと思います。私は、担当部が少し考え、講演会、それから先ほど花村先生が言われた「あるぷキッズ」、そういうところが話をしていくことだと思います。例えば、幼稚園の保護者会等で話をしていく。お母さんへの啓発とい



う表現をしていいかどうか分かりませんが、スマホの将来的な子どもたちの影響、自己肯定感が下がる、人の目を見ることができない等の問題が出てくるのがスマホの影響があるとすれば、改めなければいけないと思います。これが、先ほど福島先生がイタリアの話をされましたが、韓国でも時間を区切ってやらせないとか、それだけ世界の国が危機感を持っているのです。

私は、日本に大変な時代がくるのではないかと考えております。ですから、松本市でもそういった対策を考えてもいい時期にきているのではないかと考えています。対策を考えないために悪い状況が広がってきていると思います。

では、赤羽教育長から一言ずつ、お願いします。

赤羽教育長

今、市長からもお話がありましたが、もうそろそろ具体的な取組みをしていかないといけない時期に来ていると思います。先程、花村先生からも移動教育委員会の話がありましたが、30日に神林地区で開催する移動教育委員会の懇談会のテーマも地区から要望があり「子どもとメディアとの関わりについて」となっています。

11日に行われた「子どものこころとからだの問題を考える。学校関係者と学校医のつどい」においても、「子どもの自尊感情を高めるためには」というテーマで開催されました。また、翌日の市P連においても梓川中学校で研究会がありましたが、その際の内容も「愛着」や「子育て」でした。今、あらゆるところで話題になっており、保護者の皆さん等も危機感をもっていると思います。是非、「みんなで子どもとしっかり向き合っていこう」ということを、こども部や教育委員会でもやっていかなければいけないと思います。それから、「メディアリテラシー」に一応取り組んでおりますが、そのあり方等も、もう一回考えてみるべきではないかと思っております。

逆に今はそういう意味で盛り上がってきていいチャンスかなと思ってますので、「ピンチをチャンスに」という言葉がありますが、知恵を出し合って具体的に取組めたらと思っております。

菅谷市長

花村先生、一言どうですか。

花村委員

確かに難しい余り切れ込むと切れ過ぎちゃう。切っとなないとやっぱり

腐ってしまう。そういう何か非常に難しい立場ですね。

菅谷市長 先生のような名医がぐるぐる回りながら講演会をしたらどうでしょうか。繰り返しやることで浸透してくるのではないのでしょうか。

では、山田委員さん、何かありますか。

山田委員 先程、予防接種の話をしました。多分そういうことがずっと考えていけば、お母さんがなかなか愛着、スマホをいじっていて子ども見なかったとか、そういう育て方の蓄積の一つとして、そういうこともあるよってことを知らない親が沢山いると思うのです。

菅谷市長 知らないと思います。

山田委員 「家の子弱くて」で済ませてしまっている親がいますが、本当に掘り下げると、「愛着障害」ということも考えられるとを情報として親御さんに入れてあげたいと思いました。

菅谷市長 ぜひ、親育てではないですが、私は、親の認識不足だと思います。情報が入れば、「そうなのか」と分かると思うのです。

わかりました。それでは市川委員さん、どうですかね。

市川委員 実行してみることにしたいと思います。それは何かというと、今、「働き方改革」と盛んに言っております。私の会社では、「ノー残業デー」を週3日設定、1年に継続して1週間休暇を取得する「がんばれ休暇」を設定しています。「やればいいな」ということは分かりますが、実際にやることは結構大変です。企業は、そういう意味では楽で、会社の社長が「やる」と決めてしまえば出来てしまいます。

今、皆さんの話を聞いていて思ったのですが、「会社に来たら全員スマホを置いて仕事行け」ということをやってみたいと思います。結果、どのような成果が出るか。それも一つではないでしょうか。だから、「スマホに頼らない」、「スマホを使用せず人に物を伝えるにはどうするか」等とか、それを皆さんの話聞いていてやってみたいなと思いました。そうすると、何かまた見えるかと思っています。

松本市がノーマイカーデーをやっていますよね。私の会社でも設定していて、その日は、私も浅間から自転車通っています。

やってみると分かることがあります。「良い」と言って、やらないでい

ると駄目ですが、とにかくやってみる。

一度、会社に来たらスマホを全員置いて現場行く。これを是非やってみようと思います。

菅谷市長  
福島委員

楽しみですね。福島委員さん、どうでしょうか。

子育て中の親はとても忙しいです。

このパンフレットの真ん中のイラストを見ていると、確かに自分がやらなければいけないことを優先させるために、子どもにIPADとか、スマホを与えてしまうことがあると思います。

私は、かける愛情は時間だと思っています。左側に読み聞かせのイラストが出ていますが、私も、仕事を終え疲れて家に帰った時、子どもに「本を読んで」と言われると、すごくテンションが下がります。でも、ここで読まない、読んであげることが、その時間をその子のために使うということが、子育てするときに大事だということをこの絵を見ていて思いました。

子どもが成長していくときに、非常に深刻な問題が出るということを親にもっと知ってもらいたいと思います。

菅谷市長

そういうことなんですよ。

まとまらないですが、全ての委員さんから忌憚のないご意見をいただきありがとうございます。この後、担当課でその辺を考えてもらおうと思います。

最後に、褒めてあげることがとても大事だよと委員さん方から話があり、冒頭、私が東京へ行った話をしましたが、ある私立の小中一貫校で「21世紀を担う君たちへ期待」というタイトルで講演をしてきました。中学3年生の皆さんの感想文がつい先日送られて来まして、先日の週末読みました。自己肯定感のことを話してきたのですが、少し紹介したいと思います。この子は中学3年生です。「僕は自分に自信が持てずに、必要とされていないと考えてしまうことが多い。でも講演を聞いて、もっと自分と向き合って、自分をもっと知る努力をしていきたい。そうすれば個性を見つけ、自分が人の役に立てる方法も見つけられると思うから」

次の子は、「自分のよいところをもっと極めて、その力をどこかで発揮

して相手を支えるような人になる。何でもネガティブにならないように、  
一歩踏み出して行きたいです」

それから「僕は自分を卑下することが多いのですが、今日話を聞いて、  
必要とされているとは思えなくても、心の片隅にある人の役に立ちたいと  
いう思いを大切にしたいと思いました」、「今日は、菅谷さんの話を聞いて、  
普段から自己肯定感を持つことと、時代に流されることなく、立ち止まって  
自分の生活を見直すことの大切さを知りました。菅谷さんが言っていた  
アドバイスで自分は必要とされていると思うこと。個性を生かしていくこと。  
人を支える人間になるということを中心に考えていこうと思った。なぜなら、  
私は要らない存在と考えたり、死にたいとたまに思ってしまうのですが、  
それは納得した人生をしていないからです。菅谷さんのようになりたいと  
思います」

最後ですが、「僕もいつ死んでもいいような納得できる人生を歩みたい。  
頑張ってるよ、ママ。」というものでした。子どもたちを褒めてあげ  
ればみんな分かっているのです。だから、「君たちはすごい能力を持っている  
んだよ。多少のことでへこたれるな」という前向きな話をして、この  
ような感想文をもらうと、子どもたちがまた考え直してくれるのではない  
かと思いました。自己肯定感ということで褒めることでちゃんと変わって  
くる。そう思いました。以上でございます。

それでは最後、その他として赤羽教育長、「人口減少と今後の学校のあり  
方について」をお願いします。

赤羽教育長

もう既に今、地方が人口減少社会に入り長野県でも、今後の学校のあり  
方が課題になっています。国でも公立小中学校の適正規模、適正配置に関  
する手引きを出し、少子化に対応した活力ある学校づくりに向けてを公表  
しております。

資料1は、私が県民新聞のデータを基に作成したものです。

例えば、中野市を見ると、11校中8校が1学級の小学校になっています  
ので、将来的には30人で1学級になってしまいます。

それから、長野市は54校ある小学校のうち、17校、3分の1以上の  
学校が1学級となっています。それぞれ大規模、小規模、ばらつきがあり

ますが、トータルとして見ると、これからの子どもたちの減少や学校のあり方について分かると思います。

松本市は、人口減少率が低く小学校が72.6で2学級から3学級平均で維持でき、県下の状況と比べていただきたいと思います。

資料2は、長野市が昨年度から小学校を中心に「活力ある学校づくり検討委員会」を始め、中間のまとめの資料です。長野市も多くの学校が山間地を中心として小規模校が多くなってきているため今後のあり方を検討しています。そして、大勢の集団で学ばせたいという願いと、地域の学校は残したいという願い、この相反する二つの願いをどうミックスしたらいいかと考えています。

松本市でも5月に策定した「第2次の教育振興基本計画」の中で「少子化等に対応した学校のあり方の検討に着手します」と記載をしてありますので、今後、松本市としても、重要検討課題の一つとして、できれば今後の総合教育会議でも懇談していけたらと思い資料提供をしました。

菅谷市長

何か質問等ございますか。

このように人口が減少してしまいますと、当然、高等学校の数も減り、大学の受験者数も減少してきてしまいます。長野県に県立大学等を作っても子どもがいなくなってしまう、入学してもらうために学校のレベルを落とさないといけなくなってしまいます。何か逆行しているのではないかなと危惧を抱いてしまいます。

他にいかがでしょうか。

ご意見等ないようですので、よろしいでしょうか。

その他、全般を通して、何かご意見ございますか。

本日予定しておりました議事は全て終わりました。それぞれ有意義なご意見ありがとうございました。なお、本日の内容については、事務局で議事録を作成して、速やかに公表していきたいと思っておりますのでよろしくお願ひします。

では、事務局に進行をお返しします。

小林教育政策課長 ありがとうございました。

今年度予定しておりました総合教育会議はこれで終了となります。

<午後4時30分閉会>

会議録調製職員

教育政策課教育政策担当係長

堀 敬子